

令和 2 年 6 月 14 日現在

機関番号：12501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K21415

研究課題名(和文)近世期古典演劇における稽古事文化の基礎的研究

研究課題名(英文)A Basic Study of Culture on The Practice of Traditional Theater in the Edo Period

研究代表者

田草川 みずき (TAKUSAGAWA, Mizuki)

千葉大学・国際未来教育基幹・准教授

研究者番号：10367097

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、古典演劇の稽古事文化に焦点を当て、近世文学に現れた稽古事文化の分析と、稽古事関連資料の収集を通じ、近世当時の稽古事の実態に迫った。特に、謡・義太夫節・長唄等の「古典演劇譜本」における、出版・形態・記譜方法等の変遷について考察し、現代に至るまでの稽古事の変遷の実態を明らかにしている。また、そうした都市における稽古事の研究から派生した課題として、地方の素人が担い続けてきた、佐渡の人形浄瑠璃の伝承についての調査研究も行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の古典演劇の多くは、純粋な舞台芸術としての興行収入だけでは成り立たず、素人弟子への稽古の報酬、および素人弟子が観客になることによって、今日まで演劇としての命脈を保ってきた。しかしながら、近年は素人の稽古者が著しく減少している。2020年のコロナウイルス禍は、それに拍車をかけた形である。本研究の成果は、近世期以来の稽古事文化の実態を明らかにすることを試みたもので、日本における稽古事文化の総合的研究の端緒を開き、古典演劇の存続と正しい伝承に寄与することを目的としている。

研究成果の概要(英文)：This research focuses on the practice of traditional Japanese theater. I analyzed the practice which appeared in literature in the Edo period. In addition, it tried to collect material concerning the practice, and to know the realities of the practice. In particular, I considered the transition of publication, form, and notation method in "Music book of the traditional play" such as Utai, Gidayu-bushi, and nagauta. On the other hand, there is a problem derived from the research of the practice in the city. We also conducted research on the tradition of Puppet theater in Sado, which was handed down by local amateurs.

研究分野：人文学

キーワード：稽古事 謡 義太夫節 古典演劇 近世文学 近世演劇 人形浄瑠璃文楽 佐渡

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

日本の古典演劇の多くは、純粋な舞台芸術としての興行収入だけでは成り立たず、素人弟子への稽古の報酬、および素人弟子が観客にもなることによって、今日まで演劇としての命脈を保ってきた。しかし、現在の古典演劇研究は、「舞台芸術」としての演劇を扱うものが主流を占め、「稽古事」としての古典演劇の社会的な位置付けや、そのシステムの解明は、不十分なままとなっている。

## 2. 研究の目的

本研究課題では、演劇の稽古事が多様化・盛行した近世中期の関係資料の博搜とデータベース化を行う。さらに、多くの素人弟子を有した能謡と浄瑠璃に焦点を絞り、門弟数・催事・稽古料・稽古方法等の実態について分析し、「稽古事」研究のモデルケースとして発表する。こうした基礎的研究を備えることで、日本における稽古事文化の総合的研究の端緒としたい。

## 3. 研究の方法

能楽・人形浄瑠璃・日本舞踊など、分野ごとの個別研究を再確認し、内容を精査すると共に、関係資料の収集・整理を行う。各分野の先行研究で指摘されているものに加え、新たな資料を博搜する。さらに、近世文学に現れた稽古事文化の事例をデータベース化し、内容の分析を行う。具体的な研究方法は、下記の通りである。

### (A) 稽古事関連資料の調査収集

#### 【近世から近代における「稽古事」関係資料の博搜】

能楽・人形浄瑠璃・日本舞踊など、分野ごとに個別に行われてきた研究成果を収集・再確認し、内容を確認すると共に、押さえておくべき「稽古事」関連資料をピックアップする。

#### 【データベース化と内容分析】

資料からピックアップした情報は、門弟数・催事・稽古料・稽古方法・免状等、個別に分類し、データベースソフトを用い、基礎データとして蓄積する。

14項目は以下の通り。

①資料名 ②情報名 ③演劇分野 ④資料種別 ⑤刊・写の別 ⑥成立和暦 ⑦成立西暦  
⑧著者 ⑨筆者 ⑩版元 ⑪書肆備考 ⑫個別備考 ⑬所蔵機関 ⑭所蔵番号

### (B) 近世文学に現れた稽古事文化のデータベース化と分析

#### 【「噺本」に現れる稽古事文化の事例収集】

特に草双紙・噺本等に注目し、稽古事に夢中になっている一般人を面白おかしく活写した部分などを抜粋。

#### 【データベース化と内容分析】

国文学研究資料館 (<https://www.nijl.ac.jp/>) 等の各種データベース、特に「噺本大系本文データベース」 ([http://base1.nijl.ac.jp/infolib/meta\\_pub/CsvSearch.cgi](http://base1.nijl.ac.jp/infolib/meta_pub/CsvSearch.cgi)) を使用しながら、稽古事について記された箇所の抜粋・分析を行う。

## 4. 研究成果

### (A) 稽古事関連資料の調査収集

早稲田大学演劇博物館、国立国会図書館等の所蔵資料の調査を行った。国立国会図書館における調査については、特に近世後期から明治時代にかけての資料について、義太夫節の教則本が、改題や合綴を繰り返し、明治期に至っても刊行され続けた様相を明らかにすることを目指した。この調査結果の一部は、2019年度、国立国会図書館ホームページのデジタルコレクション・貴重書データベース

(<http://dl.ndl.go.jp/search/searchResult?categoryTypeNo=1&categoryGroupCode=C&categoryCode=02&viewRestrictedList=0|2|3>) に、10点分の資料解題として掲載された。

また、謡・義太夫節・長唄等々の「古典演劇譜本」における、出版・形態・記譜方法等の変遷についての考察を、論考「日本古典演劇譜本の近代—その変容と明暗」(『東アジア古典演劇の伝統と近代』勉誠出版、2019年3月)にまとめた。

本研究課題では、課題名に「近世期古典演劇」とある通り、主として近世期の稽古事を扱う計画であったが、当該書籍『東アジア古典演劇の伝統と近代』に寄稿するにあた

り、近世のみならず、明治維新を経て近代に至る稽古事文化について、改めて資料のし調査・研究を実施し、論としてまとめられたことは、大きな成果となった。

上記とも関連し、稽古事文化の研究と深く関わる、現在の古典演劇のあり方について、特に義太夫節人形浄瑠璃の演劇評という形で考察・公表している。演劇評執筆では、本研究等で得られた作品の歴史の変遷を踏まえ、正しい伝承に貢献することが目的である。本研究期間中も、年に2回、朝日新聞紙上に劇評を掲載しており、例えば2019年度は、「評・国立劇場九月文楽公演」(『朝日新聞』2019.9.12(木)夕刊)、「評・国立劇場十二月文楽公演」(『朝日新聞』2019.12.12(木)夕刊)の2点を発表した。また、こうした活動を、社会に対する研究成果の還元と位置付け、研究期間中、積極的に行うよう心掛けた。

なお、近世中期の加賀藩における能楽の記事を多く載せる「葛巻昌興日記」の研究会に参加し、その成果を毎年、共著論文「『葛巻昌興日記』所引能楽記事稿」として発表している。当該日記には、加賀藩主をはじめとして、その家臣たちもが能楽の稽古につとめ、盛んに演能を行う様子が克明に描かれており、こうした記事を集めて解題を付した同論は、近世期の武家社会における稽古事の実態を知ることのできる貴重な成果となっている。

## (B) 近世文学に現れた稽古事文化のデータベース化と分析

研究代表者が、2016年度11月より国文学研究資料館のプロジェクト研究員として、古典籍の画像タグ付け作業に従事したことから、近世文学の中に現れた稽古事文化についての多くの示唆を得た。これを機に、まずは「近世文化に現れた稽古事文化の分析」という課題を中心に研究を進めた。

近世文学の中から分野を絞り込み、稽古事に関わる箇所を一覧化して分析を行った。特に草双紙・噺本等に注目したが、これらには、稽古事に夢中になっている一般人を面白おかしく活写した部分が多く見られる。当時の人々の「稽古事」または「稽古者」に対する客観的な視点を垣間見ることが出来る点からも、これらの分析は「稽古事」研究に非常に有用である。

近世文学に現れた稽古事文化を探る素材として、研究当初より注目していた噺本については、国文学研究資料館(<https://www.nijl.ac.jp/>)の「噺本大系本文データベース」([http://base1.nijl.ac.jp/infolib/meta\\_pub/CsvSearch.cgi](http://base1.nijl.ac.jp/infolib/meta_pub/CsvSearch.cgi))を利用し、稽古事について記された箇所の抜粋・分析を行った。こうした研究成果については、成果発表を目指して最終年度も引き続き実施してきた。これに加えて、近現代の東京における義太夫節人形浄瑠璃の稽古と伝承について、年度末から新年度にかけて、楽劇学会大会などで学会発表を行う予定があったが、この度の新型コロナウイルス蔓延の影響により、学会の開催自体が延期となってしまった。予定していた学会が2020年度中に開催されれば、順次発表を行いたいと考えている。

また2019年度末、国文学研究資料館よりの依頼を受け、データベース高度化専門員として再び古典籍の画像タグ付け作業に従事することとなった。これを好機として、今後さらに本研究課題を深めることができると考えている。

また、本研究期間の後半からは、本課題より派生する形で、計画3年目より開始した、地方の浄瑠璃、および地方における浄瑠璃作品の受容等についての研究にも注力することとなった。その成果として、『『田村麿鈴鹿合戦』と阿漕浦伝説』(郡司正勝先生研究会編『歌舞伎の出口・入口』2020年5月)との論考を発表している。

さらに、地元の人々が研鑽を重ねて伝承してきた佐渡の古浄瑠璃について、新潟県立歴史博物館からの依頼により、講演「日本演劇史の中の「佐渡文弥節」—その位置付けと役割—」(にいがた文化遺産活用推進プロジェクト実行委員会・新潟県立歴史博物館・佐渡郷土文化の会・警女歌ネットワーク主催、2018年9月、於：あいぽーと佐渡)を行ったことを契機として、先行研究の整理などを行った。その後も新潟県立博物館の佐渡古浄瑠璃関係の、映像保存や台本確認などの作業に関わるうちに、佐渡古浄瑠璃をめぐる資料保存や調査等の研究計画を、科学研究費補助金・基盤研究(B)として申請、無事採択され、研究を続けることとなった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 入口敦志・江口文恵・田草川みずき・深澤希望・柳瀬千穂・山吉頌平・竹本幹夫	4. 巻 43
2. 論文標題 『葛巻昌興日記』所引能楽記事稿（貞享四年正月～六月分）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 演劇研究	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 田草川みずき	4. 巻 -
2. 論文標題 「田村麿鈴鹿合戦」と阿漕浦伝説	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歌舞伎の出口・入口	6. 最初と最後の頁 64-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 鳥越文蔵・田草川みずき・佐藤知乃・光延真哉	4. 巻 60
2. 論文標題 鳥越文蔵氏に聞く	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歌舞伎 研究と批評	6. 最初と最後の頁 5-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 入口敦志・江口文恵・田草川みずき・深澤希望・柳瀬千穂・山吉頌平・竹本幹夫	4. 巻 42
2. 論文標題 『葛巻昌興日記』所引能楽記事稿（貞享三年五月・十二月分）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 演劇研究	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田草川みずき	4. 巻 62
2. 論文標題 平成30年上半年期の文楽	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歌舞伎 研究と批評	6. 最初と最後の頁 112-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 入口 敦志・江口 文恵・近藤 弘子・田草川 みずき・深澤 希望 柳瀬 千穂・竹本 幹夫・	4. 巻 41
2. 論文標題 『葛巻昌興日記』所引能楽記事稿 (貞享三年閏三月・四月分)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『演劇研究』	6. 最初と最後の頁 17-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 入口敦志・江口文恵・田草川みずき・深澤希望・柳瀬千穂・竹本幹夫	4. 巻 40
2. 論文標題 「葛巻昌興日記」所引能楽記事稿	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 演劇研究	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田草川みずき	4. 巻 -
2. 論文標題 日本古典演劇譜本の近代 その変容と明暗	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東アジア古典演劇の伝統と近代	6. 最初と最後の頁 52-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大澤留次郎・柴田康太郎・田草川みずき 司会・児玉竜一
2. 発表標題 くずし字とデジタル化 - 演劇博物館における「くずし字判読支援研究」 -
3. 学会等名 楽劇学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 TAKUSAGAWA Mizuki
2. 発表標題 Return from Death: Puppet Theatre Play "Yoshitsune and the Thousand Cherry Trees"
3. 学会等名 University of Cincinnati lecture event (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田草川みずき
2. 発表標題 近松没後の義太夫節文字譜索引の作成について
3. 学会等名 歌舞伎学会大会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 鳥越文蔵・内山美樹子監修・義太夫節正本刊行会編・田草川みずき担当	4. 発行年 2020年
2. 出版社 玉川大学出版部	5. 総ページ数 173
3. 書名 義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集 第六期 61 新板累物語	

1. 著者名 役者評判記刊行会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 456
3. 書名 歌舞伎評判記集成 第三期	

1. 著者名 役者評判記刊行会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 504
3. 書名 歌舞伎評判記集成 第三期	

1. 著者名 鳥越文蔵・内山美樹子監修・義太夫節正本研究会編・田草川みずき担当	4. 発行年 2018年
2. 出版社 玉川大学出版部	5. 総ページ数 157
3. 書名 義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集50『酒呑童子出生記』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>【新聞劇評の執筆（朝日新聞）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞劇評「評・国立劇場五月文楽公演」（『朝日新聞』2016.5.19（木）夕刊）</li> <li>・新聞劇評「評・国立劇場十二月文楽公演」（『朝日新聞』2016.12.12（月）夕刊）</li> <li>・新聞劇評「評・国立劇場二月文楽公演」（『朝日新聞』2017.2.13（月）夕刊）</li> <li>・新聞劇評「評・国立劇場九月文楽公演」（『朝日新聞』2017.9.11（木）夕刊）</li> <li>・新聞劇評「評・国立劇場十二月文楽公演」（『朝日新聞』2017.12.21（木）夕刊）</li> <li>・新聞劇評「評・国立劇場五月文楽公演」（『朝日新聞』2018.5.21（木）夕刊）</li> <li>・新聞劇評「評・国立劇場九月文楽公演」（『朝日新聞』2018.9.20（木）夕刊）</li> <li>・新聞劇評「評・国立劇場九月文楽公演」（『朝日新聞』2019.9.12（木）夕刊）</li> <li>・新聞劇場「評・国立劇場十二月文楽公演」（『朝日新聞』2019.12.12（木）夕刊）</li> </ul> <p>【能と狂言総合誌『花もよ』CDシリーズの解説執筆】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「十代目豊竹若太夫名演集（1）」「十代目豊竹若太夫名演集（2）」「豊竹古靱太夫名演集（1）」の解説（能と狂言総合誌「花もよ」編集部・2017.6）</li> <li>・「豊竹古靱太夫名演集（2）」「豊竹古靱太夫名演集（3）」「豊竹古靱太夫名演集（4）」の解説（能と狂言総合誌「花もよ」編集部・2017.9）</li> <li>・「豊竹古靱太夫名演集（5）」「豊竹古靱太夫名演集（6）」「十代目豊竹若太夫名演集（3）」の解説（能と狂言総合誌「花もよ」編集部・2017.12）</li> </ul>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----